

令和6年度
第1回朝日地域振興懇談会
会議録（概要）

期日：令和6年9月24日（火）

場所：朝日中央コミュニティセンター 大集会室

令和6年度 第1回 朝日地域振興懇談会会議録（概要）

- 日 時：令和6年9月24日（火） 18時30分から20時50分まで
- 会 場：朝日中央コミュニティセンター 大集会室
- 出席委員：齋藤良弘、難波金一、進藤 享、宮崎ちよ、伊藤ます子、佐藤 清、大瀧博勝、
渡部 巖、清野大輔、難波一之、難波志津香、伊藤比呂貴 計12名
- 欠席委員：清野吉喜、今野めぐみ、伊藤由紀子
- 市側出席職員
 - 【本 所】副市長 阿部真一、企画部長 上野 修、地域振興課長 菅原 青、
地域振興課 主査 渡部久美子
 - 【朝日庁舎】支所長 鶴見美由紀、総務企画課長 齋藤健一、市民福祉課長 佐藤智井、
産業建設課長 清野たえ、総務企画課 主査 上野由貴、
地域まちづくり企画調整専門員 齋藤富喜、主事 近野辰夢 計11名

一次 第一

1. 開 会

2. あいさつ

難波会長あいさつ

阿部副市長あいさつ

3. 報 告

(1) 令和6年7月25日・26日の大雨災害について

(2) 令和5年度第4回朝日地域振興懇談会での質問事項への対応について

4. 懇 談

(1) 朝日地域重点施策及び地域まちづくり未来事業について

(2) 庄内交通バス路線の見直しに伴う公共交通再編について

(3) その他

5. その 他

6. 閉 会

1. 開 会 18時30分 (進行 支所長)

2. あいさつ

難波会長あいさつ

阿部副市長あいさつ

3. 報 告

(1) 令和6年7月25日・26日の大雨災害について

説明：産業建設課長

(2) 令和5年度第4回朝日地域振興懇談会での質問事項への対応について

説明：総務企画課長

委員 消防団や自主防災組織で管理している消火ホースが痛んでいたり、消火ホースの乾燥塔が使えない状態になっていたりする。これらの更新費用について、市の考え方は。

総務企画課長 自主防災会等で防災備品を整備する場合、市で紹介できる事業としてコミュニティ助成事業がある。助成額は30万円から200万円となっている。申請する自治会や自主防災会も多いため、すぐ採択になるという約束はできないが、今年度は大針地区で助成を受けている。要望があれば総務企画課に相談いただきたい。

委員 地域の消防設備は2年前に集落対応と言われ、消火ホースを全て更新した。市で消火ホースの点検はしないのか。また、防災訓練の際に防災無線が鳴らなかったが、その後の対応状況は。

総務企画課長 消防設備については、消防団と分署が定期的に検査を行っている。その際、古い設備はリストに上がり、順次対応となると思われる。
訓練時に防災無線が鳴らなかったのは自治会長を通じて伺っている。訓練前に点検すべきであったが、今後はこのようなことがないように対応していく。

4. 懇 談

(1) 朝日地域重点施策及び地域まちづくり未来事業について

説明：支所長、庁舎各課長

委員 湯殿山スキー場のR天国とは、例えばスノーボーダーが長く滑られるコースになっているといったようなことか。

産業建設課長 R天国とは、雪壁をR状に整正し、スノーボーダーやスキーヤーが角度をつけて波乗り感覚で滑られるようにしたものであり、ロコミで評判が広がっている。

委員 六十里越街道魅力発信事業の実施予定に、地域の若者を対象としたSNS講習会とあるが、この対象者は若者限定なのか。また広報の方法は。

産業建設課長 地域の若者を対象と記載しているが、SNSに興味があり、自分でも発信したい、頑張りたいという方すべてが対象である。広報については市のホームページに掲載する予定である。

委員 まちづくり未来事業の山の恵み産地化事業において、市街地での移動販売を行っているとのことであるが、市内のどのエリアで実施しているのか。また、購入する方の年齢層など、どのような方にニーズがあるのか。

産業建設課長 市街地での移動販売は、産直カーにより週2回実施している。場所は南銀座池田の店舗前と、中央公民館付近で産直あさひ・グーのファンである市民の方の車庫を借りて販売しており、購入者はリピーターの方が多い。
また老人福祉センターでも行っており、高齢者向けの講座の参加者が、懐かしいものや手がかり自分では作らなくなった惣菜などを購入している。山菜、キノコは特に喜ばれている。

委員 笹巻づくりや、その笹の葉採りに関連して、山の恵みを定期的な取引きにつなげられないものかと考えている。笹巻に限らず、山菜の塩漬け方法など意外と知られていないことを市内の料理店などに伝承する場を設けてみるのはいかがいか。料理人に声かけをして、産直の購入者の間口を広げるイメージで十分だと思う。そうすることで、市街地の料理店、料理人と生産者を結び付け、産直の売上につながることも期待できる。

産業建設課長 これまでも地域の特産品を広くPRするとともに、地域の方々が、より良いものをより多く生産するための講習会を開催してきた。
案内する層については基本的に一般市民としてきたが、料理人などにも声をかけ、消費者、生産者、また加工する方など多方面の皆さんから体験していただくのも良い提案である。今後の取組として検討していきたい。

委員 木を伐採するという技術は大変難しい。伐採ができる方の高齢化もあるが、朝日地域に住んでいても木を切れない方が多い。山の手入れができないということは朝日地域にとって大きな損失であり、木を切る技術を有する方を育成する必要がある。このような人材を育てる環境、また人材の維持に対する市の支援をお願いしたい。

産業建設課長 山に関する取組について朝日地域では、昨年度からチェーンソーの講習会を始めており、今年度も10月下旬に開催する予定である。

関連して、昨年の秋に玉切りした木を使って、今年4月にはキノコの植菌体験を行っている。

山の手入れに必要な技術を勉強する場合は重要だと認識しており、今後も継続して取り組んでいきたい。

委員 農道、林道、また市道の維持管理の一環である草刈りは地元住民も協力して実施しているが、人口も減り年々作業が厳しくなっている。市で所有する乗用の草刈り機を業者に貸与して実施するといったことは検討できないか。

産業建設課長 農道、林道、市道の維持管理については、草刈りなどを地元自治会の共同作業として取り組んでいただいている。

草刈り作業用に市の乗用草刈り機を貸与できないかとの提案について、この場で即答はできないが、持ち帰りとさせていただきたい。

委員 朝日地域は雪が多く、屋根の雪下ろしなど雪に対する作業が大変である。雪に関する高齢者への支援として、非課税世帯を対象とした屋根の雪下ろしに対する助成はあるが、助成対象は居住している家屋のみと認識している。

朝日地域は市内と比較し雪の量が全く違う。転出の原因が雪ということも考えられる。このことを理解していただき、居住している家屋のみならず、蔵、車庫なども含めた雪下ろしの補助、助成ができないか検討いただきたい。

市民福祉課長 高齢者福祉サービスについては全市統一の要綱で取り扱われている。高齢者の雪下ろし助成については、令和5年度に助成額を16,000円から16,500円に引き上げしているが、現在のところ対象家屋は居住部分のみであり、附属屋は対象外となっている。

ただし、朝日地域は年間の利用件数も突出して多いことから、補助基準の拡大に対する意見として承りたい。

委員 全ての計画の基本は人口であり、地域の活性化の基本でもあると考えている。鶴岡市総合基本計画後期基本計画の終期である2028年に、朝日地域の人口が何人になるかといった資料が欲しかった。

また、鶴岡市は若者の地元定着率、地元就職率が非常に低い。現在住んでいるところ、住み慣れたところで生涯生活できるような施策が重要だと考える。市の計画においては、新規高等学校卒業生就職者のうち市内就職者の割合を、現状値の57%から66%にしたいと記載されており、これはぜひ実現してほしい。

続いて、朝日地域の企業は約9割が中小企業である。そのため、地元の中小企業を育てる取組として、優秀な大手企業と地元の中小企業との懇談会、交流会が必要ではないかと考えている。大手企業をはじめ中小企業の方々との情報交換により、大手から地元中小企業への発注率を高めていただきたい。そのためには、地元の中小企業の受け入れ体制も重要となる。地元中小企業もさらに勉強し、受

け入れ体制づくりにも力を入れるべきである。

支所長

人口の推移については、昨年度、人口問題研究所のデータを紹介させていただいた。それによると、朝日地域における 2050 年の人口は 2,083 人ということであった。

続いて、朝日地域における目標値については、施策の成果指標 K P I として 3 つ、総合計画に設定している。

1 つ目は、転出による世帯減少率を定住環境の整備によりできるだけ抑えようというものであり、人数ではなく減少率で設定している。

2 つ目は、地域内経営耕地面積の確保であり、中山間地域の農地は耕作条件が悪く、高齢化などにより離農する農家が増加する中、新たな借受者を探すことが困難な状況にある。そのため、施策により地域内における耕地農地の減少を緩やかにして農地の維持が図れる、という指標を設定している。

また、朝日地域への観光入込客数ということで、観光面での目標値を設定している。

企画部長

人口ビジョンについて今回の資料に載せたが、今年度、県では将来的な人口ビジョンを策定する想定で進めている。それを受け、鶴岡市では来年度、少し踏み込んだ人口ビジョンを作ることを検討している。市の施策についても来年度にもう一度検証したいと考えている。

委員

朝日地域は人口が将来的に 2,000 人台になり、大変な高齢化になる。その中で元気に暮らしていくには施策面でも福祉の要素が非常に大きくなる。元気な人たちをいかに若いうちから育てていくかが非常に大事ではないか。

副市長

人口減少、また高齢化に対する施策として、大きく 3 点挙げられる。

1 つは福祉面であり、健康な住民生活を送るための、例えば「いきいきぼんぼの会」といった福祉施策、また健康管理につながる施策が非常に重要である。

また、公共交通については、乗客が少なく長距離の路線を庄内交通で徐々に切り離してきた。その代替として市のバスを準備したり、デマンド交通で対応したりしてきたが、自助努力で運営していくバス路線の維持も大きな課題であり、それを乗り越えないと地域に住む人はいなくなると考えている。

続いて最大の案件として、地元の人が地元に着着するための 1 番の課題は、働く場所、雇用の場の確保である。鶴岡市は 100% 近くが中小企業、零細企業だが、市の 1 番の特徴は産業のバランスがいいところと考えている。

例えば、農業産出額は令和 3 年に 282 億円で県内 1 位、工業製品の出荷額は 5,800 億円ほどで、令和 4 年から 1 位となっている。

専業農家は減っているが、農業の傍ら市内で仕事に従事している。今後も、農業、工業をバランスよく発展させる必要がある。

これら 3 点を充実させ、市民生活に不安なく暮らせる施策を今後も講じていき

たい。

作ったものを産直カーに載せて市内で販売する取組が紹介されたが、そういった事例をたくさん作り、チャレンジし、エラーがあれば課題を検出して取り組んでいく。そういった試みがこれからも続くと考えている。

委員

人材不足が1番の課題になる。やはり新卒者をいかにして地元に着させるかが大きな課題と考える。

朝日地域で育った人が、生産年齢になると朝日から出ていくというのは非常に残念である。これらに対する取組、施策について十分配慮してほしい。

副市長

僅かではあるが、25歳から35歳の年代で転出より転入が少し多いという事実がある。

産業を育てる、郷土愛を育てる、ということもあるが、自分で仕事をつくるという気風も今の若い人には増えてきた。起業・創業の観点からの取組も支援できるようにしたい。

委員

湯殿山スキー場について、例えば全く滑られない子供を指導する場合、指導者はスキーを脱いで子供を支えながら初心者コースを歩いて下りることがあるが、初心者コースが圧雪後にもかかわらず膝ぐらいまで埋まり、指導者が歩けない場合がある。

湯殿山スキー場は日本でもトップクラスの整備環境、整備機械は揃っているが、フラットなバーンの圧雪が粗く、圧雪・整地技術は整っていないと感じる。

R天国も素晴らしいが、スキー場のベースとなる平らなバーンのコンディションをもう少し綺麗に圧雪していただきたい。初心者コースこそ大事だと考えており、けがの予防にもつながる。小学生が10年後20年後に大人になってスキー場に帰ってきてくれるような、そんなスキー場になってほしい。

産業建設課長

湯殿山スキー場については市で指定管理しており、利用者等、関係者で意見交換を行い、より良い湯殿山スキー場にしたいと考えている。

いただいた意見は湯殿山スキー場に伝えさせていただく。

委員

南部地区では現在、県の大型事業が行われており、大型車両がひっきりなしに走っている。住宅地のためすれ違いもできず、通勤時間も長くなったとの相談も住民から受けている。

鶴岡市としては、県に対し道路の拡張整備に関してどのようなアプローチをしているのか。

企画部長

県道整備に関する県への要望としては、危険な道路の解消、ひどい渋滞の解消、この2つについて路線を特定し、毎年要望活動をしている。市では優先順位をつけ要望しているが、基本的には危ない道路の解消が1番になる。例えば、通学路

で子供が歩く横を車がスピードを出して通るため歩道をつけてほしい、こういった要望を最優先にしている。なお、大きい問題がある場合などは調整することも必要なため相談いただきたい。

委員 朝日地域の防災訓練は毎年同じことの繰り返しであり、今の異常気象には対応できないと考える。水害時を想定し、消防方面隊と一緒に土のう積みの訓練など、もう少し踏み込んだ内容を検討してもいいのではないかと。

総務企画課長 今年度の朝日地域防災訓練は、消火訓練、段ボールベッドの組み立て方を訓練した。最近の大雨では各地で越水や浸水が発生しているので、今回は土のうを利用した訓練も含め、内容を検討していく。

(2) 庄内交通バス路線の見直しに伴う公共交通再編について

説明：総務企画課長

委員 朝のバスの時間がとても早い。この時間は何とかならないのか。再編案も随分早い時間だと思うが、これしかないのか。

総務企画課長 庄内交通とは今よりも遅くできないかと協議したが、市街地の高校生も乗せながらの運行を考慮すると、この時間でなければ学校に間に合わないとのことであった。

市内の高校だけでなく、南銀座で乗り換えて高専まで行く生徒も間に合う時間帯、さらに、鶴岡駅で酒田方面に乗り換え、産業技術短期大学にも間に合う時間帯にしなければならない。それに合わせると、どうしても朝日地域を出発する時間を早くしなければならず、これ以上時間を遅くすることは難しいと伺っている。

(3) その他 特になし

副市長 朝日地域は鶴岡で最も広い面積だが、生活するには森や豊かな緑の環境があるだけでは非常に難しいということを常々感じている。

そのような中で、「仕事をつくる」ということが1番大きな課題と考えている。仕事をつくるというのは、工場があり、企業があるだけではなく、自分で仕事をつくっていくということも非常に重要である。

そして最後に交通の話があった。庄内交通のバスと、定時定路線を組み合わせた案であったが、住民の皆様から意見を頂戴し、市でうまく調整を行い制度化していくことが必要である。

交通、福祉、健康、産業、いずれもこの地域で生活していくためには重要な観点である。様々な意見を伺わせていただき、皆様とキャッチボールしながら制度化していきたいと考えているため、今後も皆様から意見をいただきたい。

5. その他 特になし

6. 閉 会

(終了 20時50分)